

令和5年度学校経営計画表

1 学校の現況(2023年5月1日付)

学校番号	125	学校名	水城高等学校		課程	全日制	学科	普通科	理事長	山野内 吉明	
校長	小田部 幹夫		副校長	稲葉 節生		副校長・事務局長	加茂川 裕昭		事務長	鈴木 利久	
教頭	檜山 敏明		荒川 伊望		真田 倫紀		システム管理室長	多田 昌弘		所在地：水戸市白梅2-1-45	
教職員数	管理職 8	教諭 78	養護教諭 1	常勤講師 9	非常勤講師 29	ALT 1	事務職員 9	技術職員 1	カウンセラー 1	寮母 1	教職員計 138
生徒数	1学年		2学年		3学年		全学年		1学年15クラス 2学年16クラス 3学年13クラス	44クラス	生徒計 1659
	男	女	男	女	男	女	男	女			
	322	255	364	263	273	182	959	700			

2 目指す学校像

○学力の向上を図り、グローバル化・多様化する社会に通用する人材の育成を目指す。
○主体的に学び、活動する姿勢を育み、自ら考え、判断し、行動できる人材の育成を目指す。
○部活動等の課外活動に意欲的に取り組み、活力ある学校を目指す。
○健全な道徳観を有し、敬愛・友愛の情をもって他者と協調し、社会に貢献できる人材の育成を目指す。

3 現状分析と課題・目標

項 目	現 状 分 析	課題・目標
学習・進路指導	質の向上を目指した日々の授業改善、朝夕の課外、個別面談、新入試に対応した進路指導を心がけ、大学入学共通テスト3年目の本年も、多くの大学合格者を出した。筑波大10名、茨城大39名のほか、北海道大・東北大・東京工業大・一橋大・東京外国語大・大阪大等国立大学・大学校に161名、早稲田大・慶應義塾大等私立大学に862名(うち短大6名)が合格した。医学部(医学科)には9名、歯学部・薬学部には8名が合格した。また、本校独自の連絡システムを有効に活用して、新たに「授業動画配信」に着手し、生徒の学習活動を支援した。教員側もICT教育に慣れ、さらに工夫を凝らし、生徒・保護者だけでなく、外部の方々からも、引き続き評価されている。「水城の探究」も外部団体の表彰を多数受けるなど充実している。	更なる授業改善を5年度の重点項目とする。独自のICT環境の効果的活用により、主体的で創造性のある深い学びを促進するため、「授業動画・録画教材配信」を充実させる。引き続きコース制等で進路希望をかなえる教育の実現を目指し、学習・進路指導を充実させ、大学合格率上昇、進学内容充実を図る。
生徒指導・生徒支援	基本的な生活習慣を身に付けさせるべく、頭髮・服装指導や交通安全についての指導を大切にするとともに、挨拶の実践やマナー意識の向上を涵養してきたことで、生徒は落ち着いた学校生活を送れており、外部の方々からも評価されている。教職員の共通認識のもと、生徒に公正・公平に接し、定期的に意識確認を行い、心の問題やいじめ防止に常に注意を払い、生徒の変化に適切に対応するように努めてきた。生徒個々の状況を把握するように努め、守秘義務徹底のもとで、教育的支援を情報共有しながら進めている。	教育支援体制充実も5年度の重点目標とし、工夫を加えていく。また、交通ルール遵守の徹底やSNS利用時のメディアリテラシー向上等を引き続き図り、18歳成人に向けて、必要な常識や判断力、品位ある態度を育成する。
課外活動・特別活動	男子駅伝が14年連続17回目の全国大会出場を果たし、アーチェリー・女子バスケット・空手道・フェンシングも全国規模で活躍し、書道・写真・競技かるたも昨年同様全国高等学校総合文化祭に参加した。女子駅伝・陸上競技(トラック・フィールド)・女子バレー・剣道・水球水泳も関東大会等に出場した。コロナ禍が落ち着きをみせる中、生徒会は毎年開催となった水城祭をはじめ各学校行事で活動を始め、美化委員会が継続して、水戸市道路里親制度での清掃作業を行うなど、各委員会が主体的な活動を模索し行動している。	創造性を育み、他者を敬愛して、不屈不撓の生きる胆力を身に付けた生徒を育てる。学業と部活動の両立を目指して、生徒会や各委員会活動に加えて校内外諸活動の活性化を図り、生徒の主体的な活動を支援していく。

4 中期的目標

1 ICT教育を充実させ、主体的で深い学びを実践し、学習意欲が高く活気にあふれた生徒の集団とする。
2 継続的に高い進学実績を積み重ねることで、確固たる進学校を目指す。
3 安心で安全な落ち着いた環境の下で有意義な学校生活を送ることができるよう、生徒指導・生徒支援を徹底する。
4 新型コロナウイルス感染防止等健康管理に十分配慮しつつ、部活動や校外活動等に有意義なかかわり方をさせる。
5 学業と部活動をととして心と身体のバランスのとれた人材を育成する。

5 本年度の重点目標 ： 特に、「授業の改善」と「生徒支援の充実」に努める。

重点項目	重点目標
授業の質の向上を目指し、授業改善に継続して取り組む。	タブレット導入7年目。全生徒がタブレットを所有する充実したICT環境をより向上させ、長期にわたるコロナ禍でも継続的に主体的で効果的な学びを実現した実績を活かし、「授業動画・録画教材配信」を充実させる等、大学入学に対応できる学力を身に付けさせる。
	授業改善を重点目標に定め、十分な教材研究を積み、新たな指導法を研究・工夫し試みる。教員間で授業見学を行ったり、外部から情報を受け入れたりすることで、質の高い授業を展開できるよう引き続き努力する。
	定期的実施している生徒による「授業アンケート」の結果を自身の指導に生かし、常に授業の改善・工夫に努める。
きめ細かい進路指導を実施する。 国公立・難関私立大学等、生徒が希望する大学に多数の合格者を出せるよう努力する。	学校生活の各場面で生徒をよく観察・把握し、個別面談・LHR・集会をはじめとして、生徒の適性や希望に応じたきめ細かな進路指導を工夫して行う。
	安心安全に十分配慮し、各種の講演会や研修会を実施し、教育の現状や実態を十分理解して、幅広い見識をもって進路指導にあたる。
	入試問題の傾向分析や模擬試験結果の分析を、定期試験の作問等に反映させ、日々の授業での学習指導や放課後学習の場である「ゼミ」での指導を通して、生徒の学力のより一層の増進を図る。
生徒が落ち着いて学習でき、安心して安全に学校生活を送れるような環境を整え、生徒一人ひとりに向き合い生徒支援に努める。	生徒支援の充実を重点目標に定め、多様化する生徒の実態を踏まえて、教職員チームによる支援体制をさらに良いものにするように努める。引き続き、進路変更の防止を目指し、生徒が充実した生活を送れるよう、必要な研鑽を積みつつ、対応する。
	通学路での交通安全指導により、交通ルール遵守や公共の場でのマナーを身に付けさせることを含めて、18歳成人となった時代に、一人前の社会人としての資質を備えられるように研鑽し、教育に活かしていく。
	発展した情報化・国際化社会を生きる人間としての自覚を持たせ、SNS利用時の注意点などを踏まえた知識やメディアリテラシーをしっかりと身に付けさせられるように工夫を重ねる。
	普段から生徒とのコミュニケーションを心掛けるとともに、二者面談やアンケートを活用していくことで、心の問題やいじめの早期発見・防止に努める。
募集広報活動を工夫し、より充実させる。	本校の教育理念に共感する入学者を確保するために、組織的・計画的に、新たな工夫をこらしつつ、広報活動を行っていく。
特別活動・課外活動を活性化させる。	59.8%、61.7%、61.9%と増加してきた部活動加入率を踏まえ、安全に部活動など課外活動に多くの生徒が参加し、学業と両立して、充実した高校生活を送れるように支援する。
	清掃奉仕活動等を通して、公共心や社会性、他者を思いやる気持ちを養うとともに、世界的な環境問題等を考えるきっかけを与える。
	生徒会や委員会等の活動の場で、主体的に活動できるよう、学校行事の機会等を有効に使い、具体的に適切な助言・支援を行う。